

同窓会報

No.77

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

四日市市茂福65
TEL <059> 365-3631

印刷

㈱東海フォトデザインシステム



母校創立120周年を祝う

同窓会第五代会長 伊藤 勲作
(四高35年度卒)

母校は昨年創立120周年を迎えました。

旧制の富田中学校、四日市高等女学校、四日市北高等女学校の3校が昭和23年に統合されて現在の三重県立四日市高等学校が誕生致します。

以来、母校は「質実剛健」を建学の精神とし「文武両道」を校是として、120年の歩みが続けてまいりましたが、同窓生一同は母校に対し改めて敬意を表し感謝の意を捧げたいと思います。また昨年は新たな天皇陛下のもとで令和の時代が始まりましたことは国民挙げての慶びでありましたが、同じ年に母校が創立120周年を迎えたことは偶然とはいえ二重の慶びでござい

ました。

さて今日、世界に目を転ずれば米中貿易問題や香港問題、北朝鮮問題や英国のEU離脱問題、難民問題など枚挙に暇がありません。また近年わが国をはじめ世界各地で異状気象による大規模災害が多発しており、多くの人々が亡くなったり自然が失われたりしています。その一因が地球温暖化によるものではないかといわれています。一日も早く地球温暖化を食い止めるため二酸化炭素排出量を世界的規模で削減し、化石燃料によるエネルギーに頼らない持続可能な社会づくりを目指して、自動車のEV化や水素エネルギーの研究など様々な企業活動や社

会運動が世界各国で始まっています。

また今年わが国で2020東京五輪・パラリンピックが開催されます。世界各地から観戦や観光で来日される皆様にわが国の素晴らしさを改めて実感頂ける様、おもてなしの心でお迎えをしなければなりません。

母校はこれからも歩みが続けてまいります。同窓生一同は今後ともそれぞれのお立場で、地域社会の発展やわが国の繁栄に一層貢献いただきますようお願いを申し上げます。

の研究など様々な企業活動や社



ご挨拶

学校長 松岡 泰之

平素から本校教育に、ご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

本校は、本年度、創立120周年を迎えました。同窓会の皆様には、これまで本校の発展充実にご支援を賜りましたことに重ねて御礼申し上げます。10月に予定しております120周年記念式典ならびに記念講演は、台風接近のため、残念ながら当日実施できませんでしたが、次の周年行事に向けて本校がさらに進化するように、教職員一同いっそう努力してまいります。また、創立120周年ということで、本校同窓生で、イオングループ名誉会長の岡田卓也様より、本校の教育環境の充実にと多額のご寄付をいただきました。本校として、これを機に「岡田賞」を設立して、世界・全国レベルで活躍し、四日市高校の勇名を世に馳せた生徒にこの賞を贈り、栄誉を称えたいと考えています。

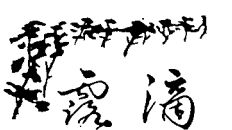
さて、本校の現状ですが、文

部科学省から研究指定を受けているSSH(スーパーサイエンスハイスクール)も今年で2年目となり、本格的な探究活動が始まりました。SSHをはじめ、あらゆる教育活動の中で、これからの変化の激しい時代を切り拓いていくために必要な力を育成したいと考えています。

昨年度の進路状況は、国公立大学に297名、うち国立難関10大学には100名、医学部医学科には27名が合格しました。年々、高い志を持つ難関大学および医学部医学科への進学を希望する生徒が増加しています。

部活動では、全国大会には、水泳、文芸、放送、SSH科学、バトン部が、東海・近畿大会には陸上、バトン、卓球、水泳、将棋部が、それぞれ出場しました。これらに出場した選手には、同窓会から温かい励ましのお言葉とともに激励金を頂戴いたしました。改めて御礼申し上げます。

今後とも母校への変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、同窓会のますますのご発展を祈念申し上げます。



昨年の本欄に記した母校の応援歌「希望の門」の後日談である。作成年を恩師伊澤宏先生の回想録をもとに一九五二年と半ば断じたわけだが、これがどうも間違っていたようなのだ。昭和26年度卒業の会員の方から在学時に歌った記憶があるのご指摘があり、これが伊澤先生の赴任する以前のことであれば、当時グラウンドで吹奏楽部の伴奏のもと全校生徒が練習をしたそう

うで、同級生の複数の人も覚えていたとのこと。それが二年生あるいは三年生の頃らしい。そうなんと一九五〇年もしくは一九五一年には「希望の門」はできていたことになる。▼校歌の制定については、「百年史」にはつきりと記載があり、一九四九年のことである。これとあまり間をおかず「希望の門」が作成されたというのが事の真相のようである。伊澤先生の勘違い(?)を鵜呑みにしたことをお詫びして、ここに訂正しておきたい。当時在校された方で、このあたりの事情を記憶されている方があればどうかご教示願いたい。せつ々なのでもう少し作成年を絞りたいと考える次第である。▼ところで、歌ではなく実在の希望の門があるのをご存じだろうか。実は同窓会館の門がそれなのである。あまり目立たないが、門柱の石板上に丹羽文雄氏揮毫の「希望の門」という文字が刻印されているのが、何よりの証である。会館の落成は一九六九年のこと、創立七〇周年記念の最大の事業であった。当時関係した人々のアイディアに思わず感心してしまうのは筆者だけだろうか。(青山)



受付風景



総会参加のみなさん



講演風景

30代でやはり小説家になりた
いと思ひ、37歳で新人賞候補に
なるも最終選考で落選し、もう
ダメだ、小説家になるのはあき
らめようと思った時に思い出し
たのが『花』の詩で、一筋の気
持ちで書こうと思ったこと。そ
の後、尾鷲市を舞台にした『風
待ちの人』で40歳でデビュー、
2作目の『49日のレシピ』はN
HKで放映され、また、『BAR
追分』は新宿にも追分の地名
があり、四日市の追分を思っ
て書いたこと。そして今回、歴

同級生岩崎弥生さんのご紹介
により、2度の直木賞候補にな
られた作家伊吹有喜さんに「犬
がいた季節―四高の花と犬をめぐる物語について―」と題し、
ご講演いただきました。
伊吹さんは、昭和58年4月の
入学当時に、校内に「コーシロ
ー」と呼ばれた茶色い犬が居た
ことや、体育館前に躍動する3
人の若者の像のレリーフがあつ
たこと、そして池内定雄先生が
「ようこそ、八稜星の継承者た
ちよ」と新入生たちと呼び掛け
られ、四高生としての心構えと
して八木重吉の詩『花』の「花
はなぜ美しいか？一筋の気持ち
で咲いているからだ」と話され
たことを鮮明に覚えていと話
されました。

代の高校生の姿を犬のコーシロ
ーの目線で描くことで、子ども
でも大人でもない微妙な時期に
進路を選ばなければならぬ高
校生の様子や時代の空気が描き
たいと思って小説を書いたと話
されました。
今後の伊吹氏の作家としての
益々のご活躍が期待されます。



総会・祝賀会 参加の皆様



令和元年度 四日市高校同窓会総会報告

記念講演 伊吹有喜氏（四高61年度卒）

「犬がいた季節―四高の花と犬をめぐる物語について―」

2019年6月1日
四日市市総合会館

一般財団法人四高会 平成30年度 収支決算書

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

単位：円			
科 目	摘 要	決算額	予算額
Ⅰ. 収入の部			
① 事業収入	会館使用料	58,000	50,000
② 受取寄付金収入	同窓会より	2,370,000	2,370,000
③ 雑収入	受取利息等	1,185	4,411
④ 前年度繰越収支差額		675,589	675,589
合 計		3,104,774	3,100,000
Ⅱ. 支出の部			
① 事業費・管理費支出		1,413,281	1,699,000
会議費支出	会議等	46,432	100,000
講演開催費支出	講演会	20,341	120,000
地元協力費支出	十四川の桜管理	50,000	50,000
消耗品費支出	コピー機、事務諸経費	170,382	200,000
光熱水料費支出	電気、水道、ガス	407,845	420,000
保険料支出	火災保険料	23,510	25,000
租税公課支出	県税、市税、固定資産税、源泉税等	466,200	500,000
清掃費支出	環境整備等	79,787	120,000
支払負担金支出	商工会議所	14,000	14,000
雑費支出	証明書発行等	134,784	150,000
② 投資活動支出		1,000,000	1,000,000
修繕引当資産取得支出	会館修繕目的	1,000,000	1,000,000
③ 予備費支出		0	50,000
④ 次年度繰越収支差額		691,493	351,000
合 計		3,104,774	3,100,000
Ⅲ. 当年度収支差額		0	0
Ⅳ. 前年度繰越収支差額			
Ⅴ. 次年度繰越収支差額		0	

百五銀行富田駅前支店普通預金	単位：円
次年度繰越収支差額	0

修繕引当資産(百五銀行富田駅前支店定期預金)	単位：円
前年度末	2,700,145
今年度積立金	1,000,000
利子	230
今年度末	3,700,375

四日市高校同窓会 平成30年度 収支決算書

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

単位：円					
[収入の部]					
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額	
① 同窓会収入	入 会 金	全日制 1,800円×1,068人	8,955,400	9,044,000	
	同 窓 会 費	終身(20000) 345 6,900,000	1,922,400	1,944,000	
		10年(10000) 0			
		5年(5000) 2 10,000			
		3年(3000) 2 6,000			
		1年(1000) 117 117,000	7,033,000	7,100,000	
② 雑収		寄附金、利子	7,299	229	
③ 前期繰越金			775,771	775,771	
合 計			9,738,470	9,820,000	
[支出の部]					
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額	
① 運 営 費	給 料、手 当	給料、手当	1,576,381	1,700,000	
	印 刷、事 務 用 品 等	印刷、事務用品等	1,174,000	1,200,000	
	電 話、郵 便、イ ン タ ー ネ ッ ト 関 連 費 等	電話、郵便、インターネット関連費等	289,112	300,000	
			113,269	200,000	
② 会 議 費	総 理 会 会 費	会場費、懇親会費、案内状	182,610	380,000	
	常 任 理 事 会 費	会場費、会議費、案内状	128,081	250,000	
			49,129	100,000	
			5,400	30,000	
③ 事 業 費	会 報	会報印刷及び発送費	1,571,616	2,300,000	
	学 校 活 動 助 成 金	会報印刷及び発送費	515,752	1,100,000	
		激励金・語学研修補助等	1,055,864	1,200,000	
		(一財)四高会への寄付金	2,370,000	2,370,000	
④ 四高会拠出金			2,600,000	2,600,000	
⑤ 積 立 金			13,190	120,000	
⑥ 予 備 費			0	350,000	
⑦ 次 期 繰 越 金			8,313,797	9,700,000	
合 計			8,313,797	9,700,000	

百五銀行富田駅前支店普通預金	単位：円
平成30年度収入	9,738,470
平成30年度支出	8,313,797
次年度繰越金	1,424,673
平成31年度卒業生 同窓会費 預り金	6,041,000
今年度末	7,465,673

特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金)	単位：円
前 年 度 末	53,608,693
今年度積立金	2,600,000
利 子	4,278
今 年 度 末	56,212,971

母校創立120周年記念 第11回 銀城親睦ゴルフ大会

母校創立120周年記念第11回銀城親睦ゴルフ大会は、11月7日に男子54名、女子3名の総勢57名で四日市カンツリー倶楽部で開催されました。なお、優勝者は下記の通りでした。

また、第12回ゴルフ大会は令和2年11月5日(木)に四日市カンツリー倶楽部で開催いたします。

男子の部 南中 成昭さん (41+42=83-10.8=72.2)	女子の部 今谷 香さん (45+52=97-20.4=76.6)
--	---



男女優勝者と会長



懇親会風景

母校創立120周年記念総会及び祝賀会



令和元年度会費納入者 (敬称略)

伊藤大輔、上原葉、内田美優、岡孝行、片山愛唯、川口晴加、河村若奈、小崎詩奈、坂井理乃、坂崎未依、鈴木ひとみ、関裕心、園田裕基、田部友菜、辻夏香、辻紀行、中岡春菜、中原咲紀、布尾円香、足田有香、堀田ちひろ、前田理穂、松井翼、水野司輝、村島舞弥、山北友己、山下翔矢、若杉歩実、荒木理沙、市川雄大、伊藤汐里、伊藤由依、井上舞花、井上瑠菜、上野菜名、大根田菜月、大平珠世、岡千裕、小川日菜子、片山舜都、加藤諒、川島菜夏子、黒田麻結、後藤歌哉、近藤和佳、佐野帆南、澤田侑里、柴田優花、世古遼馬、千賀妃奈、祖父江彩花、田川明薫、田村彩英、堤幹太、中村倫章、行方美帆、西山菜乃花、林杏樹、堀田泰嵩、松岡陽和、松岡亮佑、水谷優花、虫鹿七海、森澤拓也、森下比奈、石黒千尋、井上真侑、小田果琳、鹿島萌由、北川萌花、迫江航輝、塩原悠香、田名瀬真優、中条友哉、中禮優花、長谷川奈那、藤井真子、別府衣吹、南川玲葉、向井果林、渡部沙耶、青山武生、安保花香、石原智規、市川大登、伊藤ひなた、伊藤嘉信、内田健太郎、大野史夏、岡田美加、岡村いつき、小掠由依、加藤凜太郎、川上苑華、北村有木下晴葵、小林勝太、小林真実、坂井陸人、榎あかね、佐藤公泰、澤田杏実、鈴木喬太、相馬秀亮、田嶋勇也、田中里奈、田村哲也、中川琴子、中森聡、樋口奈祐、藤澤美祐、舟木大翔、松尾直樹、松岡佑奈、森智哉、師井咲季、山口真歩、横川侑恭、若菜一慶、渡辺久晃、赤羽菜月、小井健太郎、伊藤英孝、内村俊介、大平陽斗、岡田梓甫、岡村麟太郎、加藤太一、金森雄三、小玉ちなつ、後藤優斗、小林悠佑、坂下大智、澤田和輝、鈴木結衣、谷口明日香、種村風香、塚本隼大、辻あき、寺坂俊祐、中島樹、服部匠吾、福井大將、藤田大夢、別所滉斗、細川千尋、堀田康喜、増田太一、松本海音、森勇太、森東良真、八島優斗、山口大智、山寺真由、青木悠真、池田健斗、石垣里紗、市原稜真、伊藤圭汰、岩崎哲也、岩田航輔、植村壮登、白井竜矢、小倉美有、片岡憲人、加藤峻平、神谷康太、川本翔大、小林真大、近藤景斗、坂井祐菜、沢田花音、杉野友哉、杉本七海、辻岡拓海、鶴田奈々、服部真奈、樋口綾乃、藤田大暉、奈永莉奈、三村英里、森宗一郎、山田拓実、山野公志郎、朝倉和紀、井坂淳嗣、伊藤昂介、伊藤瑞紀、井村陸人、浦野亜美、大西加那子、大野哲平、加藤大誠、加藤動、川北雄大、川越成流、川瀬翔、木野琉斗、窪田陸、糸野佑実、小林莉世、近藤春樹、佐藤友紀、鈴木純、田家裕大、高野吾郎、玉置遼子、堤百華、永井麻理亜、二之湯開登、服部透子、原口蘭、日紫喜由璃、広瀬奈南、藤井勇杜、藤澤拓真、細田理矩、三輪祐也、毛利健太郎、森さくら、森山正梧、山崎穂波、吉田豊、和田一輝、青木勇樹、秋葉実沙、阿久津瞭夏、荒木里音、石原由貴、板垣克、伊藤翔紀、伊藤亮成、稲吉七海、岩下舞菜美、内田健登、大塚朗頼、岡崎ひなた、加藤幹也、木村紋香、毛塚裕太郎、河野優衣、坂下清佳、佐々木一真、高橋里奈、武田和樹、立松侑悟、多羅尾早紀、津崎彩乃、富田朱人、長岡操、中川大成、中村真大、永山治佳、服部光汰、羽生田龍誠、林航大、平賀雅也、松岡菜月、三林由真、南孝輔、南川朋香、元水こころ、山下満瑠、浅井見友希、伊野祐実、大澤心、大嶋紗也佳、鎌田恵夢、高畑遼也、中村柊斗、野末美里、濱口璃子、久長幸太郎、廣田華子、福井達矢、水野夏帆、村木美布、山田智貴、山原瑠風、吉崎瑞希、伊藤駿佑、伊藤陸人、稲垣花音、大井海人、緒方比那、岡村賢知、笠井宏祉、清利孟央、清原観、相馬一輝、高瀬ひかる、陳旻晟、野崎桜子、長谷川竜大、服部平知、林孝祐、原幸佑、三浦悠暉、光岡佑将、矢野真菜子、山崎結奈、山路健斗、大久保智子、池田仁、北村公亮

会費納入のお願い

同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお願ひ申し上げます。

◆納入金額

終身会費 2万円
毎年納入の場合 年会費 1千円

◆納入方法

①郵便振替
口座番号 008201816367
三重県立四日市高校同窓会
※専用の振込用紙がありますので
ご連絡下されば送付いたします。
②現金書留
会館迄ご送金下さい。

《お問い合わせは同窓会館まで》

059-3651363
sikonka@m2.cty-net.ne.jp



四日市高女の思い出 思いつくままに

諸岡 紀美子
(四女41回卒)

昭和14年より17年まで在籍した市立四日市高等女学校は旧四日市市の中心部「上新町」、現在の中部に在り、4年制、5年制、専攻科が有りました。

4年制は「い・ろ・は」の3組、5年制は1組、1組は50人程の大部で、狭い教室、狭かった校庭等が印象に残っています。

小学校を卒業し、違った環境の中で胸躍らせながら学校生活を楽しんだのも3年生まで。昭和16年に太平洋戦争が始まって、次第に緊張する事が多くなりました。夏休みも短縮され、女性と雖も心身鍛錬を、という事で御在所岳に登ったり、また皇居二重橋前の草取りの勤労奉仕が修学旅行となりました。

お結びを風呂敷に包み、水筒と襷掛けし、モンペ姿で夜行列車「四日市駅発22時」で上京、翌朝6時着、早速二重橋前で班を組み、午前中草取り、午後は歩いて市内を見物しました。

2日目も同じく草取りの奉仕、午後の市内見学の中で隊列が前に進まなくなり、途端に雪崩込むように座り込んでしまいました。それがお江戸日本橋の上でした。その日の夜行で帰四しました。奉仕の修学旅行も私達の学年で終わり、後輩からは軍需工場への動員がかかったと聞きました。

教室では、黒板の上の柱に掲げられた文字「凛乎タル気魄」、

選ばれた達筆の同級生の書。当時は難しく、理解出来ませんでした。講義の合間に眺めて、頭の中に釘付けされました。

大正、昭和、平成、そして令和と90余年を生き、戦禍を味わい、決して平々凡々とは言えない生涯の中で、何かにつけてふつと頭の中をよぎる、あの「凛乎タル気魄」という文字は、これから先、どんな事に合おうとも、女性としての優しさの中にも「凛」とした心性を忘れないという「大和撫子」の精神を伝えようとしていたのかなあと、今となって思います。

お詫びと訂正

昨年発行の「同窓会報第76号」4ページ、三輪芳子様にご寄稿いただいた記事のタイトルに誤りがありました。正しくは「四日市高女の想い出」です。お詫びして訂正いたします。



旧制富田中学校秘話

大井 弘久
(四高35年度卒)

四日市高等高校は令和元年に創立120周年を迎えました。

この記念すべき令和元年度に四高を卒業され同窓会に入会された皆様と諸先輩と共に「校名の変遷」及び「どうして富田の地に旧制中学校が設置されたか」等の歴史を振り返ってみます。

校名は、明治32年の創立時の「三重県第二尋常中学校」から2年後に「三重県立第二中学校」となり、大正8年に「三重県立富田中学校」と改称され、戦後の昭和23年まで続きました。

昭和23年に旧制の富田中学校・四日市高等女学校・四日市北高等

女学校の3校が統合されて「三重県四日市高等学校」となります。

そして翌24年に学区制実施に伴う学校再配置で四日市高等学校・四日市実業高等学校・河原田高等学校の3校が総合制に統合され「三重県四日市高等学校」となりましたが、翌25年にそれぞれが独立して、母校は「三重県四日市高等学校」となりました。

そして昭和30年に現在の「三重県立四日市高等学校」と改称され現在に至っています。なお、この年に第37回全国高等学校野球選手権大会で全国優勝を果たしましたが、因みに昨年101回を数えた夏の

今の私

北村 公亮
(四高50年度卒)



希望の門を仰ぎ見て入学した15の春。1年2組は十四川沿いにあったホワイトハウス（木造2階建て）。担任の先生は、母も授業を受けた一木先生。明治32年設立以来、5万人を超える卒業生の一人として「今の私」があります。

十四川の見えるグラウンド、陸上競技部の一員として走りまわった。生徒会役員として初めて企画した四高祭。毎日が想い出いっぱい。3年間で、長い人生から見れば、ほんの3年間で、四高での3年間は生きていくための糧となる何かを得た3年間であったと信じています。

昨年初めて関西四高会に参加して、年を越えて四高を通じて数多くの繋がりがあふれることに、改めて気がつきました。私はこの広がり続ける繋がりの中で、「今の私」に何ができるのかを考えています。そして、今までに生きてきたことを活かし、これからも生きていきたいと思います。

「今の私」は四高を卒業した18の時から四日市を離れ過ごすこととなり40数年が経ちます。十四川の桜並木は鮮やかに「今の私」の心に咲き続けています。そして、「今の私」はこれから今日を、明日を、よく生きようと思います。

四高、ありがとう。

甲子園大会で三重県勢の優勝は四高のみです。

旧制の「富田中学校」という名称は、学校所在地が当時の「三重郡富田町」であったので大正8年から使用され、昭和16年に富田町は四日市市と合併しますが、戦後の学制改革まで「富田中学校」の校名のままでした。そして戦後の学制改革で前記のように「三重県立四日市高等学校」となりました。

の学制改革で新制高校の名称が現在の「四日市高校」となった訳です。もし朝明市が出来ていたら校名は「朝明高校」となっていたかも知れません。

令和元年の夏に四日市高校の西1キロくらいの所にある『朝明プラザ』の図書館で『朝明市を知っていますか?』という展示がある」と現在私がボランティアガイド「桑名歴史案内人」をしている副会長からメールにて連絡があったので早速見に行きました。

昭和9年に国道1号線尾張・伊勢大橋が完成すると、県は富洲原港大改修を軸に三重郡富田町・富洲原町・川越村の合併による新市建設を指導しますが、3町村の人口は、2万7千人余で市制に必要な人口3万人に満たないため、大矢知村を含めた4町村で「朝明市」の実現に向けて動き出します。

この構想に富田・富洲原の両町議会は満場一致で賛成し、川越・大矢知村の村会も慎重な態度でしたが合併の趣旨には賛成しており、「朝明市」実現は時間の問題と見られていて『朝明市建設 明春早々実現?』という新聞（昭和9年8月11日・伊勢新聞）の見出しにより現実味を帯びてきました。

当時の四日市市は「グレート四日市」建設構想を唱え、四日市港を中心に、工業区域、住宅地域の拡大のために周辺地域との合併推進を目指していました。県は朝明市建設を進める一方で、「大四日市市」建設を認めたため、朝明市構想は後退しました。折しも時局は高度国防国家建設のため北伊勢臨海工業地帯建設という目標にかじが切られ、富田町・富洲原町は昭和16年に他の3町とともに四日市市と合併しました。従って戦後

かつての学校群も廃止され、現在母校は真に学力のある者が入学できるようなったので、県下トップ校であることは言うに及ばず、国内有数の優秀進学高校としてその名声を全国に轟かせています。



四高に感謝

小川 明子

（四高28年度卒）

四日市高校を卒業して60余年の歳月が流れました。

入学した当時は太平洋戦争が終わってまだ5年余りしか経っておらず世の中は貧しく、修学旅行に米を持参する時代でした。

今の生活からは想像もつかない程です。校舎もバラック建のものも有り唯一九鬼館という立派な校舎が有り、3年生になってその教室で学んだことを覚えて

います。

恩師は全員他界されました。

小谷正美先生、丹羽武先生、池内定雄先生、西尾有先生、伊藤治郎先生、思い出深い先生ばかりです。

当時の四高の周辺は、十四川堤の桜、そこから南に菜の花が

黄色の絨毯を敷いたように続きとても長閑でした。

その風景から私達同年会を「桜菜会」と名付け、4年に一度オリンピックの開催年に集まっていたが、喜寿を最後に解散し今は有志で毎年湯の山温泉で集まっています。

私が再び四高と縁ができたのは、昭和58年クラブ活動指導員（華道）として勤めることになったからです。花が好きで長年続けてきた伝統文化いけ花を母校で教えることができたのはこの上ない幸せでした。

30年の間には、男子生徒もいてすばらしい感性で活けられたのを今も脳裏に浮かんできます。教えるのと同時に、私も成



上海で同窓会

宇野 雄二

（四高47年度卒）

2017年の春先のことだった。たまたま手にした日本語フリーペーパー『上海ジャピオン』をめぐって、「メンバー募集／同窓会」のページの小さな記事に目が釘付けになった。なんとそこには、数々の名門校に交じって「上海四日市高校OB

長らせていただいた30年でした。「継続は力なり」とはよく言われますが、続けたことで役に立つことを実感した30年間で

学校とは離れても、好きな花を眺め、その花を活ける幸せな生活に感謝しながら、四高が益々発展されることを祈念致しております。

ささに恥ずかしくなったけど、求めていた教科書にない勉強とは、この事だと気付き、その後積極的にクラブ、生徒会の役を引き受けた。

単位が足らず5年目に。生徒会長の大役を経験させて頂いた。授業を受けない時間は図書室で先輩達と文学や趣味、人として等、語り合った事も貴重な時間だった。

息子3人、高校進学するに当たり、私の体験で道標を示せて大事な親として教育が出来た。今75歳。地域のボランティア、自治会活動、「行動する事の大切さ」を実践させて頂いている。四高通信制、今は亡き恩師・三輪裕先生に感謝。

先生「是非学んで下さい」と。入学初日のHRで先生、いきなり「竹崎君クラス委員やりなさい」。内向的な性格の私には人の前に立つ事は顔から火の出る思いだったが、これも勉強と役を引き受けた。入学当初は生徒は全員弁当持参、お茶の係としてお茶を注いで廻る中で女性の机の前で注げず自分の机へ戻ってしまった。その姿を先生は見ていて「竹崎君、犠牲的精神だよ」との指導に自分の器の小



夢への一歩

伊藤 藍音

（四高H27年度卒）

昨年、私は四日市高校で3週間教育実習をさせて頂きました。卒業から4年経っても学校の雰囲気はそのままで、在籍当時の思い出を懐かしみながら3週間を過ごしました。

四高に在籍していた頃の私は心と体のバランスが上手く取れずに学校を休みがちで、多くの方々に協力して頂いてやっと卒業することができたほどでした。私が卒業するときに、ある先生から頂いたお言葉が今でも心に残っています。「あなたはたくさんさんの痛みを知ったのだから、その分誰かに優しくすることが出来る。だから先生に向いていると思うよ。」元々教師の家系ということもあって教員免許を取得しようと考えていまし

たが、このお言葉に背中を押されて教師になるという夢を持つようになりました。そのような過去を持つ自分が教育実習生として教壇に立ち、先輩たちに授業をするというのはとても感慨深いものがありました。教師という立場になると、在学中には気が付かなかったことがたくさん見えてきました。先生方や生徒とのコミュニケーションを取るこの大切さや授業づくりの難しさなど、多くのことを学びました。先生方から頂いた貴重なアドバイスを胸に、今後も努力していきたいと思っています。

他の実習生たちとお互いに励まし支え合い、母校で久しぶりに過ごした3週間はあっという

83年卒」と私の、たった4人のささやかな夕食会ではあったが、初対面とは思えないほど打ち解けて語らい、時の経つのも忘れてしまった。

あれから3年、OB会のメンバーは最大12名まで増えたものの、そのうち小林さんを含めて5人の方が日本に帰任されたり他の都市に移られたりして、現在の会員は7名。年齢は、30代から60代までと幅広く、職業も、日本企業の駐在員、現地企業の総経理、日本総領事館の職員、大学の日本語教師と多彩である。職種も違い世代の差もあるが、四日市高校の同窓生である気安さゆえか、年に2、3回開

いている食事は大いに盛り上がり、話の尽きることがない。上海は中部空港から2時間少々で行ける近さとは言え、外国であることに違いはない。異文化との接触、労働意識の相違などによる軋轢で、暮らしていくことが苦痛になることもある。しかし、そんな時こうして同窓の仲間が集まって高校時代を懐かしみ、胸襟を開いて語り合える「場」があるというのは、なんと貴重なことだろう。

これから上海に赴任する方、すでに上海に住んでいてこの会の存在を御存じない方、ぜひご一報いただきたい。

間で、夢のような時間でした。こうして四日市高校で夢への一歩を踏み出したことは、私にとってかけがえのない思い出となることでしょう。



恩師・三輪裕先生

竹崎 啓一郎

（通信制52年度卒）

佐賀県の中学を卒業、この地に就職。親への仕送りの為、夜遅く迄働いた。

20歳を過ぎた頃から大人になってゆく事への言うに言われぬ不安を覚える日々の中で、桑名市の広報紙に四高通信制学生募集の記事を見つけ早速、書類提出。

面接指導で担当の三輪裕先生「君は通信制に何を学ぶ」と問われ「教科書に無い高等教育の何かを学びたい」と答えたら、

会館だより

平成元年より同窓会館を守りつつ事務を担ってくださいました市岡田賀子さんが令和元年末をもち退職されました。30年もの長い間、本当にお世話様でした。



四女42回卒 赤木綾様よりご厚志を頂戴しました。

リレー随想

〈第23回〉

ラグビーの神様

諸岡 伸 (四高58年度卒)

三重県教育委員会 高校教育課長



「ラグビーの神様が見てるよ！」

もう15年以上も前のことだが、鮮やかに思い出す。部員が、練習中に雑なプレーをすると、冗談まじりに声をかけて諷めていた。母校四日市高校に勤務し、未来を信じてひた走る、後輩でもある生徒たちと、ラグビーを通じて夢を共有できることは、この上ない喜びだった。その教え子の一人が教職につき、同じ四高のグラウンドで指導を引き継いでくれている。

さらに時は遡り、ラグビーの神様は、四高ラグビー部員だったころの私を、生涯の友人や、自分を教職に導いてくれた人生の師との出会いへもいざなってくれた。だから恩返しと心得て、教え子たちにも、「品位」「情熱」「結束」「規律」「尊重」を憲章とするこの素晴らしい競技を通じて、何かを学び、かけがえない人に出会うことを願ってきた。



翻って、昨年のラグビー
ワールドカップ。日本代表

の躍進は、予想をはるかに超えた。前大会を引き継ぎ、善戦するかもという期待があったとはいえ、優勝候補を次々と打ち破るとは。誰も本当に勝つとまでは思えない中、選手だけは勝利と信じて、一点の疑いもなかったとか。それは、世界中のどの競技のナショナルチームにも類を見ない、年間260日にも及ぶ合宿を含むハードなトレーニングを経て、持てた確信だ。この国におけるラグビーのステータス向上、この競技の本質的な素晴らしさを知らしめるという夢は、勝つことでしか叶えられないという、代表としての壮絶な覚悟があった。それは大会後の言動でも揺らぐことがない。マスコミでの露出が格段に増えても、誰一人として調子に乗ることなく、バラエティー番組で、笑わないことをいじられても、それを逆手に捉えてラグビーの知名度アップにつなげる姿勢。その覚悟は報われて、年明けのトップリーグでは、全国ほぼすべての会場を満員にした。地元ホンダヒートのホームグラウンド、鈴鹿スポーツガーデンでの試合も経験したことのない熱気の中で開催できた。やっぱり、ラグビーの神様は見えてくれた。

50歳も過ぎれば天命を知ると言うが、なんとなく物事の結果が見えるから、何を進めるにあたって、まあこんなものだろうという妥協が先に立つ。代表の活躍は、そんな妥協の日々のわが身を恥じ入らせ、同時に、まだまだやれると最上の勇気を与えてくれた。

ましてや、素晴らしい力と限りない時間を持つ四高の後輩たちに、実現不可能なことがあるのか。願わくは、後輩たちが、妥協のない日々を過ごし、夢を実現することを。彼らのことを、彼らが信ずる〇〇の神様が見ていてくれることを。



古関裕而記念館訪問のこと

西脇壽郎

(四高32年度卒)

一昨年春、同窓会館に、古閑裕而記念館から一通の電話が入りました。平成30年は全国高等学校野球選手権大会の100周年に当たり、大会歌「栄冠は君に輝く」の作曲者である同氏を称えるの企画展を行います。大会優勝校である貴校の応援歌「希望の門」は古閑先生の作曲であります。何か記念になるものがあります。何か記念になるもので、優勝しますればとのこと、優勝した時のメンバーの写真をお送りしました。



た個人的にはそれだけで終わりにしたくなく、昨年10月に業界団体（建設設計）の全国大会が福島市で開催されるのを利用し、福島市郊外の記念館へお邪魔してきました。

写真に見られる通り、堂々とした佇まいの建物で、1階は、外からはレストランが喫茶店と思わせる作りながら、事務所と椅子・机の置かれた寛ぎの空間

で、誰でも自由に使える空間です。そして2階が古関さんに関するあらゆる資料等が展示・陳列されていました。

約1時間ほど見学させていただき、地元の人々の古関さんに対する並々ならぬ思い入れを感じながら、次の目的地である全国大会の会場へ向かいました。



編集後記

母校創立120周年記念同窓会事業であります祝賀会・名簿作成・ホームページリニューアル・会館補修のうち、祝賀会はつがなく開催されましたが残り3事業はまだ途上です。が、順調に準備は進んでおりますのでご安心くださいませ。

また、市岡さんに代わりまして、年初より小林典子が事務を担当。在館させていただいております。至りませんが、どうか宜しくお願いいたします。尚、開館時間は母校授業日の10時～12時、13時～16時です。

新しい雰囲気の中で編集いたしました今年度会報はいかがでしたでしょうか。先輩方から多くを教えてくださいながら、守るべきものと変えていかなければならないものを見定める目を養っていかねければならないと強く感じております次第です。

(小林の)

お悼み

吉田又康氏

(四高30年度卒)

令和元年5月ご逝去



永年にわたり常任理事として会の運営に大きなお力添えをくださいました30年度卒吉田又康氏が昨年5月永眠されました。ご冥福をお祈りいたします。

学園だより



挑戦と経験

3年2組 津坂 萌華

「成功」とは何でしょうか。日本史で出てくるヤツではなく、triumphです。私は、「挑戦と経験」ではないかと思います。

四日市高校には普通の学校行事だけでなくSGH(SSH)行事もあります。私はその中の幾つかに参加しました。私は英会話が特に苦手なので、少しでも慣れようとエンパワーメントプログラムに参加しました。案の定うまく話せませんでしたが、どうにかして伝えようとした行為は良い経験となりました。2年の時受講したグローバルリーダー学では、仲間と考えを出し合って発表したり、様々な講義を聴いたり、論文やパワーポイントを作成しました。初めて知った事ややった事が沢山あって、面白かったです。

また、勉強面については、想像以上に大変でした。でも今思うと、大変な位が成長の為には丁度良いのかなと思います。

そして、やはり私が一番沢山の経験をしたのは部活です。私はハンドボール部に入り、個性豊かで愉快的仲間達と沢山の時間を過ごしました。皆で笑ったり踊ったり馬鹿騒ぎした事。試合や技術について悩んだ事。色々な話し合いをした事。良い思い出も大変な思い出も沢山あります。それらは全てとても良い経験になったと思います。

これらも含めて、私は高校生活において色々経験できたと思います。中には結果的に失敗と思えるものも勿論沢山あります。ですが、挑戦してみなければ、これらは経験できなかったはず。どんな経験でも、必ず自分の蓄積になります。失敗を恐れて挑戦しない事が失敗。挑戦して経験できた事が成功。それが私が感じた事です。支えて下さった方々に感謝を忘れずに。

幕張の舞台

バトン部2年8組 松浦 舞帆

私たちバトン部は、バトンの団体演技での「全国大会出場」を目標に、日々練習に励んできました。使用曲やテーマは何度も話し合い、今年は「デリラ〜悲しく、そして美しく〜」というテーマのもと、弟を失った悲しさとそれを乗り越え復讐のために舞うデリラの美しさ、そして強い意志を持つデリラを表現しようと決めました。

私たちは、昨年11月4日に行われた東海大会で金賞という結果をいただき、念願が叶って、昨年12月7日と8日に千葉県幕張メッセで行われた第47回バトントワリング全国大会に出場することができました。

全国大会では、周りのレベルの高さに緊張しましたが、積み重ねてきた練習の成果を出し、幕張の舞台に立てた嬉しさをかみしめながら、3分半の演技に全力を尽くすことができました。踊り終わった後の達成感、何よりも幕張の舞台から見た景色は今でも忘れることができません。

全国大会までの練習では、演技中も注意しあったり、全員が意見を言ったりして、とてもいい雰囲気練習ができました。厳しい練習もありましたが、部員同士で励ましあい、乗り越えることができました。部員同士の絆が深かったことが、全国大会に出ることができた理由の1つでもあると思います。この仲間に出会えて本当に良かったです。この経験は私の宝物です。

そして、支えてくださった先生方、コーチ、家族、先輩方、そして応援してくださったたくさんの方々、本当にありがとうございました。



国際科学人材の育成 (SSH事業報告)

教頭 丹羽 徹

本校では平成26年度より文科省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)事業の指定を受け、平成30年度まで三重県内で唯一のSGH高校として活動を続け、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的教養を身につけ、将来国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成を図ることを目的に様々な取り組みを行ってきました。そのSGH事業が終了する平成30年度より、令和4年度までの5年間にわたり、もう一つの事業スーパーサイエンスハイスクール(SSH)のII期目の指定を受けました。本事業では、「三重・四日市から世界へ!新たな価値を創造する国際科学技術人材の育成」をテーマに掲げ、これまでのSGHの成果を継承しつつ、新たな価値創造(イノベーション)を生み出す学校設定科目「探究」の研究・開発、及び国際舞台で活躍するために必要となる資質・能力を育成する学校設定科目や諸活動の研究・開発を行うことを目的とし、積み上げた経験をもとに以下のような取り組みを進めました。

①名古屋大学トランスフォーメティブ生命分子研究所特任准教授の佐藤綾人さん(5月)、英語講演として京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点博士研修員Jonseong JEEさん(10月)等から全校生徒対象に講演をいただき、また生徒個人が一人一人テーマを設定し、3年生で課題研究論文を完成させる「探究」活動に取り組みました。

②更に意識の高い生徒を募り、夏季休業中の8月に今年度初めてSSHアメリカ研修を実施して、東海岸のボストンを訪問し、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学を訪問してプレゼン等を行い、現地の学生と交流して課題研究を深化させました。またイオン1%クラブ主催のティーンエージアンバサダー事業に参加し、7月と10月に中国蘇州の高校生と相互訪問をして国際交流を深めました。

③英語をツールとしたコミュニケーション能力の育成として、SGHでの事業を継承し、様々なテーマに関して英語で討論する白熱英語講座(年間3回)を実施し、約40名ほどの生徒が参加し、英語で論理的思考を行うための学習活動が行われました。また一昨年度より四日市商工会議所のご協力を得て始まった「グローバル企業見学研修」は12月に実施され、1年生33名が参加して三菱ケミカル株式会社を訪問し、最先端の企業活動を目の当たりにし、大きな刺激を受けました。さらに夏休み中、ポジティブシンキング育成のため、5日間アメリカ中心の優秀な大学生と英語のみでディスカッション・プレゼン等を行う「エンパワメントプログラム」にも40名超の1年生生徒が参加しました。

同時期オーストラリア海外語学研修を実施し、多数の希望者から選考を経て24名の2年生がブリスベンを訪れ、現地高校・大学を訪問して意見交流を行い、現地語学学校で学びながらホームステイを経験するなど貴重な体験をしてきました。この研修に対して同窓会より参加生徒への支援をいただき誠にありがとうございました。

なお2月にはSSH活動の成果を発表する場として、初めて「四高版科学の祭典」が実施され、2年生全員によるポスター発表、代表者による口頭発表など成果発表が行われました。SSH事業3年目以降も更なる成果を追求して「探究」活動を充実させてまいります。



同窓生交歓



四高32年度卒同窓会 2019.11.2 四日市都ホテル



四高49年度卒同窓会
2019.11.3 四日市シティホテルみやび



第10回関東四高会 2019.6.15 グレースバリ新宿本店 アロナ



関西四高会 2019.9.30 ホテルグランヴィア大阪



四高野球部OB会総会
2020.1.26 アサヒビアケラー



四高45年度卒同窓会 2019.8.17 プラトンホテル四日市



星稜会(四高卓球部OB会)
2019.4.13 四日市みやび



森下杯(四高卓球部OB会卓球大会)
2019.4.14 四日市あさけプラザ



上海四日市高校OB会
2019.4.14 上海「旬の蔵」